

# 埼玉県における 救急隊員の他消防本部での 救急車同乗実習

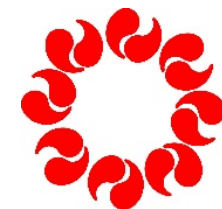
埼玉県メディカルコントロール協議会

(事務局：埼玉県危機管理防災部消防課)

令和2年度全国メディカルコントロール協議会連絡会（第2回）

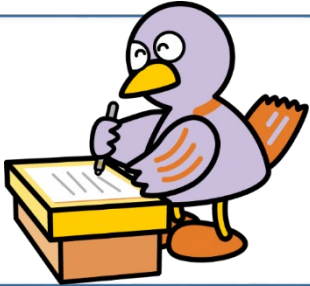


「我らの地域のメディカルコントロール取組事例発表  
“メディカルコントロール協議会による  
日常的な教育に関わる取組（質の担保・方法）”」



彩の国  
埼玉県





各消防本部における救急業務については、県の実施基準及び各地域MC協議会で定めたプロトコール等により実施



定めのない手順や状況把握の手法等は、消防本部独自の考え方で工夫



救急活動の細部の違いを経験し、自隊の活動に役立てるため、他消防本部での救急車同乗実習の実施を検討  
→各消防本部へのアンケート実施結果を踏まえて導入  
※救急車に4人目として同乗、原則、見聞のみ

①

- ・ 救急車同乗実習の受入れについて、他消防本部と調整の上、派遣先消防本部への依頼。

②

- ・ 救急車同乗実習の実施。



③

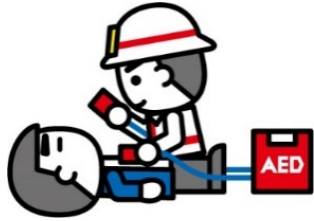
- ・ 実習終了後、実習生は報告書を作成し、自所属に報告。
- ・ 所属の指導救命士等から指導・助言を得る。

④

- ・ 派遣元消防本部は県MCに報告。
- ・ 県MCは実習証明書を交付、再教育ポイントを付与。

⑤

- ・ 実習生又は所属の指導救命士等は、実習成果を自隊又は所属内の救急隊員に対する指導や活動の改善に役立てる。



(H29.8～)

地域MC名	認定者数	受入者数
中央MC	2	19
東部MC	18	10
西部第一MC	4	9
西部第二MC	1	10
南部MC	2	6
北部MC	49	22
<b>合計</b>	<b>76</b>	<b>76</b>

問題の共有化や改善策をフィードバックし、県全体を底上げ

# 実習の成果と事例の共有 1



県MCに設置している指導救命士部会の施策立案の一環として課題を抽出し、解決のための有効な取組について事例集を作成

## 課題1：現場滞在時間の短縮について

- 解決策1：プレアライバルコール（PAC）の実施
- 解決策2：PA連携の積極的な活用
- 解決策3：隊員の役割分担を明確にする
- 解決策4：入電から病院収容までの現場活動時間のデータ分析
- 解決策5：医療機関との顔の見える関係の構築



## 課題2：救急隊員の教育について

- 解決策1：現場活動を含めた小隊単位での計画的な訓練

## 課題3：救急隊員の労務管理について

- 解決策1：救急隊2隊運用による隊員の負担軽減
- 解決策2：OAシステムの見直し・事務処理の簡素化
- 解決策3：救急講習等へ再任用の起用

実習を通じて学んだこと及び今後取り入れてみたい取組



指令課職員に対する指導救命士による研修

ワークステーション方式の導入

事例検討会に救急隊以外の職員も参加

救急の知識・技術だけでなくコミュニケーション能力の必要性

働き方改革の必要性

- ◆ 指導救命士制度とリンクさせることで、医師以外の指導者が行う日常的な教育の質の担保が可能
- ◆ 実習を通じた気づき、報告書作成による振り返り、フィードバックといった各段階を通じて新たな視座や知見を獲得
- ◆ 実習の成果とデータをセットで広く共有することで、各地域における課題や問題点解決の糸口となることを意図
- ◆ コロナ禍における影響を考慮する必要こそあるものの、全国各地域において普及できる可能性を秘めている取組

御清聴ありがとうございました。